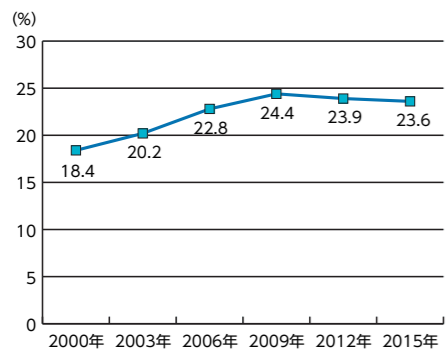


**年収 200 万円以下の割合の推移  
(給与を所得している者の中)**

国税庁「民間給与実態統計調査」  
1年を通じて勤務した給与所得より



ここまでは、生活困窮の背景や課題、その支援について専門家の意見をお伝えします。

パートやアルバイト、契約社員である非正規雇用労働者は、増加の一途をたどっています。平成元年には約800万人でしたが、平成29年には約2千万人と1千200万人増加しています。一方、正規職員は平成元年の3千400万人から増減していません。

非正規雇用労働者が増加していくなかで、年収200万円以下の人の割合も増えていきます。平成15年(2003年)に200万円以下の人の割合が20%を超えて以降、そのラインを上回っています(左表)。こうした収入格差を背景として、経済的に困窮し、最低限の生活を維持できなくなるおそれがある生活困窮者への経済的、社会的支援が求められています。

**年収200万円以下が20%超え  
子どもへの貧困の連鎖も問題に**



大阪人間科学大学  
社会福祉学科准教授  
**佐光 健氏**

**生活困窮の原因は低収入以外にも**  
生活困窮の原因の一つは、非正規社員の増加にあります。現在の日本の雇用形態は、37%が非正規社員で、うち14%が正社員にならなくてもなれない「本意非正規」です。そして、非正規社員の賃金は正規の社員と比べ、67%程度となっており、賃金格差が生じています。

また、生活困窮は全世代に関連する問題にもなっています。自立相談支援機関の相談は、子どものいる現役世代の世帯は約3割、65歳以上の世帯は約2割で、失業や離職以外の相談も多くあります。収入の問題だけでなく、家計管理も重要なポイントです。食べ物に困った経験は、家計のやりくりが苦手な人が多い傾向にある、独居の高齢男性の方が、女性と比べ、多くなっています。



息子が引きこもりで心配…  
毎月、赤字で家賃が払えない…  
1人暮らしで頼れる人もいない…  
仕事が見つからない…長く続かない…

**「支援」そして「自立」へ  
～一人で悩まないで相談を～**

平成27年4月に「生活困窮者自立支援法」が施行されてから、3年が経ちました。市では、「自立支援相談窓口」を設置し、経済的な課題をはじめ複合的な課題を抱えている世帯からの相談に対して、さまざまな支援を行っています。

「仕事を解雇され、家賃が払えない」「人間関係に悩み、仕事が続かない」など、本人の状況や気持ちに寄り添った支援を続けており、地域の社会資源とのつながりも生まれています。相談したことがきっかけで、自立した生活を送ることができるようになった人もいます。今年度からは、家計相談もスタートさせるなど、支援内容も充実してきています。また、「貧困の連鎖を防ぐ」という観点から、中学生の学習支援にも取り組んでいます。

仕事や生活の悩みを抱えている人は、お気軽にご相談ください。

**子どもの生活困窮と貧困の連鎖**

生活困窮は、子どもにも大きな影響を与えており、困窮家庭の子どもが、大人になっても困窮から抜け出せない「貧困の連鎖」が問題となっています。

生活困窮世帯の子どもが、経済上の理由などから高校中退や中卒の最終学歴となると、正社員としての就職は非常に困難となると思われます。ある調査では統計上、そうした状態からの正社員への就職は1割にも達しません。ほとんどが無職もしくはアルバイトでの雇用となってしまうのです。一方、大学および専門学校卒は7割以上の就職率となっており、歴然とした差が生じます。

**包括的な支援が必要**

このように多様な原因のある生活困窮者に対しては、経済面だけでなく、包括的な支援が必要となります。

市などに設置されている自立支援相談窓口は、経済的な支援との印象が強いかもしれませんが、それ以外の相談も受け付けています。行政サービスに繋がらなくても、地域社会に繋ぐ支援も行っています。

自分だけでなく、家族や知人が悩みを抱えている場合は、ためらわず、まずは相談に行くことが重要です。

## 悩みの解消に、まずは相談窓口へ

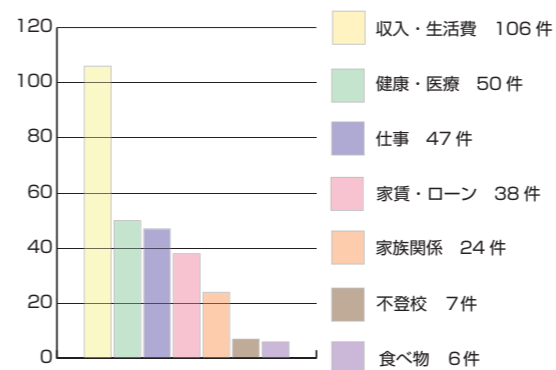
市では、生活困窮者自立相談支援窓口にて、相談支援員を3人配置しています。支援員は相談者の悩みに親身に寄り添いながら、個別の支援プランを作成し、自立までの支援をします。また、課題解決後も必要に応じて、継続的に相談に乗っています。左表のとおり相談内容は収入・生活費だけでなく、健康や家族関係な

ど多岐に渡ります。そして、相談者の年齢層もさまざまで、本人だけでなく、家族や知人からの電話相談もあります。仕事や生活の悩みを抱えている時や、自分の周りで心配な人がいる時は、一人で悩まず、まずはお気軽にご相談ください。

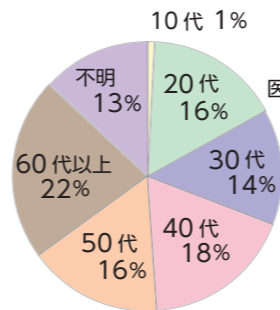
## 相談支援窓口への相談内容

(平成29年度新規相談件数 164件)

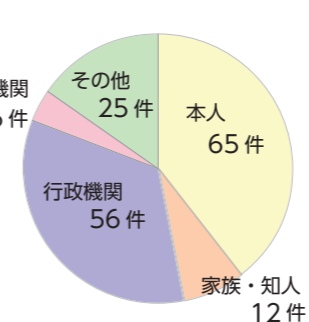
### ●相談の種類 (複数回答あり)



### ●相談者の年齢層



### ●相談者の内訳



## 【相談事例】

**38歳男性 長期引きこもり**  
(両親と3人暮らし。高校中退後、アルバイト経験はあるものの、無職に。父親の年金で生活し、母親は金銭管理はしているが、介護が必要な状況)



### 「会社に就職できました」

私は母親の介護に自分の役割があると感じ、就職の必要性を感じなくなりました。支援員さんに紹介された「介護者の会」で、自分の存在を認めてくれる仲間と出会えました。徐々に自信を取り戻し、支援員さんに紹介された、引きこもりにも理解のある会社で働き始めました。当初は慣れない環境で休みがちでしたが、徐々に休みも減り、今では充実した生活を送っています。

## 心の居場所づくり



生活支援課 主任相談支援員 高島七帆子

生活困窮者自立相談支援窓口では生活に困っている人を広く対象者としています。生活や就労相談の専門相談員が困りごとをお聞きして、一人ひとりの状況に応じ、自立に向けた支援プランを作成し、継続的な支援を行っています。

丁寧にお話を聞きながら、その方自身の人生に寄り添うような「伴走的支援」を心掛けています。もう一つ大切にしていることは、「心の居場所づくり」です。生活困窮には経済的な問題だけでなく、社会的孤立の問題があります。地域の中で誰かと繋がれる居場所に参加することで、自立に向けたエネルギーを取り戻すきっかけになると思います。生活に困ることがありましたら、気軽な気持ちで、一度、当窓口にご相談頂けたらと思います。

## 訓練×きっかけ

## 社会復帰へ向けた、就労訓練

「就労経験が少ない」「仕事が長続きしない」といった不安がある人に、就職活動前の社会参加に向けた訓練として、中間的就労を実施しています。中間的就労とは、すぐに就労が難しい人が、就労体験など、支援員や協力事業者の支援を受け、自立に向けた、スキルを身に付けるための支援です。ここでは支援を受けて自立した人の声と、それを支える事業者の声を紹介します。



中間的就労を活用し、自立した 岡崎昭一さん

**不安の中、前へ**  
高校卒業後、いくつもの仕事をしましたが、長続きしませんでした。生活も困り、親戚と自立相談支援窓口に行ったのが、中間的就労を利用したきっかけです。相談支援員さんに、せっ

せつ桜苑で就労体験してみないか提案されました。不安もありましたが、とりあえずはやってみようと思えました。働いた当初は、一つひとつの仕事に時間がかかっていましたが、職員や利用者の方に優しく声をかけてもらえ、前向きに取り組めるようになりました。2カ月ほど、中間的就労をした後、自分がこの仕事に合っているなと感じてきた頃のタイミングで、正式にせっつ桜苑で環境整備員として働けることになりました。

施設が綺麗になっていくことが楽しく、利用者さんからも、「岡崎さんが来て、施設が綺麗になった」と声をかけてもらえて、とても嬉しく、やりがいを感じています。あの時、相談に行っていたら、自分が今どうなっていたか分かりません。もともと悩む性格で、人に相談するのも苦手でしたが、本当に相談に行ったら良かったです。今はこんな自分が成長した姿をお世話になった皆さんに見せたいと思っています。

## 就労準備支援事業・認定就労訓練事業 (中間的就労)

社会参加やコミュニケーション能力に不安があり、すぐに社会参加が難しい人に、就労体験などで就労スキルを身につけながら、社会復帰につなげるための支援です。

認定就労訓練事業の協力事業者は各都道府県に認定された民間事業者です。

摂津市内では「社会福祉法人桃林会とりかい白鷺園」と「社会福祉法人成光苑せっつ桜苑」の2カ所が登録されており、今後も相談者の自立に向けて、民間事業者の協力が欠かせないものです。

## 成長のきっかけに



社会福祉法人成光苑 せっつ桜苑施設長 前田一彦氏

岡崎さんは、慣れない環境もあり、当初は大人しかったですが、徐々に表情も明るくなりました。今では他の職員だけでなく、利用者の方とも明るく話すようになっていきます。中間的就労の良さは、時間をかけて接する中で、そ

の人の良さを見つけ出せることです。忙しい環境の中でも、時間をかけてコミュニケーションを取り、どういった仕事に向いているのか、一緒に考える事が出来ます。そこで周囲に認められると、その体験が、人を変えてくれるきっかけになり、仕事での成長に繋がります。中間的就労は行政や地域との連携が必要であり、今後、地域社会を支えていく上でも重要な事業だと思えます。その人が自分の人生を歩む、きっかけになれば良いと思います。

学生ボランティアと生徒が集う場



市は、「勉強方法などを教えてもらいたい」「学校以外に勉強する場を見つきたい」といった悩みがある子どもたちに、大阪人間科学大学と連携して、学習支援を行っています。  
週に1度、市内の公共施設に同大学の学生ボランティアを派遣し、中学生を対象とした学習支援や居場所づくりを担っています。学生は、生徒の勉強を見るだけでなく、主体的に季節のイベントなどの催しも行っています。



大阪人間科学大学  
子ども保育学科教授  
柏原 栄子氏

**学習支援で共に成長**  
大阪人間科学大学が市内中学生の学習支援に携わるようになって、今年で4年目です。週に1度のこの時間が、生徒と学生それぞれの学びの場になり、生活の一部にもなっています。毎年、卒業していく中学生を

見ると、生徒の成長を実感し、学生が生徒たちに真摯に向き合ってきた姿を思い出し、感動しています。  
学習支援を通して、「人は人との真剣な関わりの中でこそ成長し、発達が遂げられる」のだということを感じました。  
また、こうした場を提供し、生徒や学生を見守ってくれる摂津市の行政、教育機関などの役割も重要です。この学習支援の場が、生徒・学生のいつでも集える場所として、これからも続いてほしいと願っています。

大阪人間科学大学の  
学生ボランティアの声

社会福祉学科4回生 片山 翔太さん



皆が少しずつ心を開いてくれて、笑顔になっていくのを見ると嬉しいです。生徒だけでなく、自分の居場所にもなり、感謝しています。

子ども保育学科4回生 小寺 はるなさん



中学生は勉強や友達のことなど、思春期で難しい時期だと思います。親に言えない悩みでも、聞いてあげられるこの場所はすごく良いと思います。

子ども保育学科3回生 磯谷 真季さん



最初は目も合わせてくれず、返事もない事もありましたが、少しずつ笑顔や会話が増えていったときに、やりがいを感じました。

子ども保育学科3回生 前山 知輝さん



ここは勉強を教えるだけでなく、生徒との距離が近くて良いと思って参加しました。皆の居場所作りの一端を担えればと思います。

社会福祉学科3回生 山野 芙美さん



皆にぎやかで、すごい楽しい場所です。中学生にとって、私たち大学生が、あこがれの存在になれば嬉しいです。

その他の支援

問合せ 生活支援課へ

※対象者は、収入・資産などの条件がありますので、詳細はお問い合わせください。

金銭管理の支援

●家計相談支援

「生活費の不足」「借金」「支払いの滞納」など家計のやりくりの問題がある人を対象に、専門的なアドバイスを通じ、しっかりとした家計管理までの支援を行います。家計を見直し、収入と支出のバランスを整え、生活を安定させます。

平成30年度から新たにスタートしています。

就職への支援

●セミナー（就労準備支援講座）

履歴書の書き方やコミュニケーション能力の向上など、就労にむけスキルアップできる連続講座です。

今年度は秋～冬ごろに開催を予定しています。

●無料職業紹介  
(地域就労支援事業)

市役所が求人を紹介しています。  
支援員が面接や就職後の定着までのフォローをします。

住まいの支援

●住居確保給付金

離職などで住居がない、失う恐れがある人に就職活動をすることなどを条件に一定期間、家賃相当額を支援します。生活の土台となる住居を整えた上で、就労支援します。

●一時生活支援

何らかの事情で住まいがなくなった人に対し一時的に、宿泊場所や食事などの日常生活に必要な物資を提供する制度です。同時に自立に向けた就労支援を行います。

★フードバンク

フードバンクとは、「食糧銀行」を意味する社会福祉活動で、食品関連の企業から賞味期限内で食べられるが、商品として流通できなくなった食品の寄贈を無償で受け、食べ物に困っている人や施設に無償で配布する活動です。

市はふーどばんく OSAKA と協定を結び、食品の支給の支援を受けています。



CSW (コミュニティーソーシャルワーカー)

～子育て世帯から高齢者まで、幅広い相談窓口～

CSWは地域住民の悩みに応じる相談員です。市では社会福祉協議会に所属する、精神保健福祉士や社会福祉士の資格を持つ3人の相談員がいます。

校区福祉委員会、民生・児童委員会など地域の関係者と連携し、地域の課題解決に向け支援しています。

問合せ 社会福祉協議会 ☎06(6155)6140へ



「地域との繋がりが希薄な人や、助けを求めることが難しい人が多く、相談者に寄り添いながら支援することを心がけています。関係機関と連携しながら、相談者と関係を築き、地域で生活していける環境を整え、困り事を解決するようにサポートしています。家族や地域の人、身近に気になる人がいれば、まずはご相談ください。」(CSW・武村)